

《どうでもいい話、その 489》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！今回は、先祖のどうでもいい自慢話です。

NHK大河ドラマ「西郷どん」は、大政奉還、江戸城の無血開城で、明治時代になります。前回また明日のテレビでも放送されますが、西郷隆盛 率いる官軍が西から江戸総攻撃へ向かっている時に、徳川慶喜の命を受け、駿府までひとりで出向き、戦わず無血開城する旨西郷を説得したのが、私の先祖“山岡鉄舟”です。その後西郷は江戸にて勝海舟と話し合い、慶喜は駿府へ下りました。山岡鉄舟は、いくつかの小説に書かれておりますが、そのひとつが山本兼一（4年前に没）作「命もいらず、名もいらず」です。その中で西郷が鉄舟のことを「命もいらず、名誉もいらず、金もいらない、という人間は扱いにくい。しかし、このような人がいるから日本は困難を克服できた」と維新後、西郷は「山岡先生」と尊敬し、西南戦争で果てるまで付き合っていたそうです。また清水の次郎長からも慕われていました。鉄舟は、若いころは“小野鉄太郎”でしたが、山岡家の婿養子になり後に山岡鉄舟と名を改めました。維新後は、明治天皇の教育係、佐賀県の初代知事などに就きました。明治生まれの私の父親の式服（モーニング）は、明治天皇のお下がりです。天皇陛下の式服は2～3回着用すると新調するそうです。なお、私の両親は岩波姓ではありません。父親は幼い頃父親を亡くし本家に引き取られ小野姓になり、母（伊藤姓）と結婚する時に、一族である“岩波家”の跡取りが無いので、本家の意向により名字だけ受け継いだそうです。山岡鉄舟は大酒飲みで、そのDNAを引き継いだ私のきょうだいは皆酒に強く、会うとグビグビです。

岩波より